

重度摂食・嚥下障害者に対する完全側臥位法の即時効果についての検討

①津生協病院

②小川貢央 田中啓太 井出宏

③

目的 座位で経口摂取困難な重度摂食・嚥下障害症例は、完全側臥位法によって、経口摂取が可能になるとの報告がある。そこで今回、重度摂食・嚥下障害症例に対して、完全側臥位法における即時効果について検討したので報告する。

方法 対象は座位での藤島嚥下グレード I の 11 例（男性 8 例、女性 3 例）、年齢 83.0 歳 ± 5.8 である。これらの症例に対して完全側臥位法を施行し、嚥下造影検査で誤嚥の有無を評価した。

結果 完全側臥位法によって、経口摂取可能例は 9 例（81.8%）、経口摂取不可例は 2 例（18.2%）であった。

考察 今回、経口摂取可能例は 81.8%と、完全側臥位法によって誤嚥リスクが軽減され、即時的な効果を示すことが示唆された。先行研究によると、完全側臥位法のメリットは嚥下反射惹起遅延、咽頭収縮不全が認められる症例に対し、咽頭側壁を底面とする空間に食塊を貯留でき、この空間に誤嚥リスクを軽減させる貯留スペースを形成できることである。今回の検討でも、嚥下反射惹起遅延や、咽頭収縮不全の可能性のある症例に対して完全側臥位法は即時的な効果が示唆された。